

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4790800025		
法人名	有限会社 スマイルケア		
事業所名	グループホーム前田の家		
所在地	沖縄県浦添市前田547番地 前田高齢者複合施設2階		
自己評価作成日	平成30年 3月19日	評価結果市町村受理日	平成 30年 9月 11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhyu_detail_2016_021_kani=true&JizyosyoCd=4790800025-00&PrefCd=47&VersionCd=021
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント
所在地	沖縄県那覇市上之屋1-18-15 アイワテラス2階
訪問調査日	平成 30年 3月 29日(木)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

本事業所は小学校・自治会館が近くに有り、住宅街で家庭的な事業所である。建物は屋根に赤瓦や2体のシーサーがあり、裏は森と畑で、本事業所も家庭菜園を設け、季節折々の野菜を利用者と共に栽培し、食事に彩を添えている。利用者や職員は明るく、笑顔があふれ家族のように1人ひとりに丁寧に関わるケアに努めている。又、入居者同士も馴染みの関係を築き、互いが支え合い、食事・洗濯・掃除などを主体的に関わり、可能な限り入居者のニーズに沿うように心がけている。利用者は自由に家族の元へ帰宅出来たり、自宅に戻りたい方には目標が実現できるように支援するように検討している。又、常に地域の一人として交流を持ち、自治会の行事(盆踊り・敬老会・クリーン作戦等)のボランティアや地域のふれあいサロンの方達(ドライブ・カラオケ・新年会等)との交流を大切に、住み慣れた場所で本人らしく穏やかな暮らしが出来るように自立支援に努めている。又、利用者がどのような容体になられても最後の看取りまでを視野に入れ支援に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は静かな住宅地の複合施設の2階にあり、敷地内に花壇や菜園でニラ、ナス、トマトを育てている。共用空間のベランダからは自然の木々が眺められ、テレビの前にはソファと本棚を置き、くつろげるカフェコーナーを作り心地よさを追求した空間となっている。事業所理念と基本方針に基づき、自治会や地域の行事などにも積極的に参加し、利用者が自分らしく生き生きとした生活が送れ、職員と利用者が笑顔で過ごせるよう心掛けている。普段の買い物や、地域のふれあいサロンでの交流で南部にドライブにいたり、外食や浦添市グループホーム合同での花見やカラオケ大会に参加している。事業所の行事にも自治会や地域の方々、近隣の保育園や学童保育の子供たちが参加してくれる。重度化や終末期に向けた事業所の方針は早期から話し合いを重ねており、本人や家族の意向に沿うよう努めている。本年度、看取りを経験し直後には管理者が利用者全員の居室にまわり、こころのカウンセリングを行った。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	本事業所の理念とともに基本的な基本指針を設け、実践的な行動目標を全職員が達成し、日々新たな気持ちで、入居者へ関わる事が出来るように、毎日始業開始前に代表、管理者、職員は皆で理念と行動目標の唱和をおこなっている。	開設時に作った事業所理念と基本方針を継続し、毎日始業前に唱和している。利用者が自分らしく生き生きとした生活が送れるよう、理念に基づいた支援を心掛け、申し送り時に理念に沿った行動ができているか確認している。入居前に理念についても家族に説明している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	事業所は自治会に加入しており、諸々の行事(地域の清掃活動や花植えのボランティア、盆踊り・ふれあいサロンとの交流でドライブ・新年会・忘年会等)利用者と職員は共に参加し日常的に地域交流をしている。	毎月、近隣のふれあいサロンに利用者と一緒に参加している。自治会主催の行事や、清掃活動、花植えなど利用者も一緒に参加し、日ごろからの交流も頻繁にあり地域に溶け込んでいる。事業所の行事にも、自治会や近隣の保育園、学童保育等の子供たちも参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所は地域の自治会やふれあいサロン等の行事の際、地域の方と職員が参加することで、認知症の方の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では実際の活動写真を会議の資料に添付して、活動を報告している。又、事業所内で起こったアクシデント・インシデント・感染症についても定期的に報告し、行政やその他の意見を取り入れサービスの向上に努めている。	運営推進会議は、2か月に一度、腰部と時間を決め定期的実施されている。利用者、家族、自治会長、地域包括、民生委員、社協職員、同業知見者等が参加している。会議では事業所の様子や行事報告、事故やアクシデント・インシデント報告と、事例検討会議での事故の原因、再発防止対策、家族への対応も報告されている。議事録は支間に閲覧用にも置いている	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者とは、電話や窓口に出向いたり、集団指導の説明会に参加したり、浦添市グループホームの連絡会に参加して、事業所の実情やケアサービスの取り組みを報告して協力関係を築くことに取り組んでいる。	2ヶ月に1度は介護保険関連や生活保護等の相談で市窓口へ出向いている。運営推進会に市の担当者が参加し、活発な意見交換を行い情報や相談をしている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者、職員は身体拘束について理解し、拘束排除方針を毎朝唱和している。利用者が離所して安全を図れない場合は、気分転換に併設事業所や屋外を散歩したりし、安全を図れる時は入口の施錠はしないようにしている。自力で車椅子やベットに移動してしまい、転倒の恐れのある利用者には、事前に家族に身体拘束について文書で説明しセンサー使用の同意をもらい、本人が移動したい場合は、見守り又は一部介助で安全を図り、行動を抑制しないように注意し、ケアに取り組んでいる。	拘束排除方針を掲げ、日々のケアの中で身体拘束をしないケアの実践を心掛けるよう毎朝唱和している。職員同士やミーティング時に話し合い、情報を共有している。転倒の恐れがある利用者のベット柵にセンサーの代わりに鈴をつけている所もあるが、本人の行動を抑制しているわけではない。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者・職員は人権尊重を理念に盛り込み毎日唱和している。職員は事業所内で情報交換や観察を怠らず、虐待が見逃されないように常に意識を持ち、地域支援課・福祉課・医師・警察・家族を含め連携が取れるように努めている。	事業所の理念にも「人権尊重」が盛り込まれ、職員も毎日唱和を行い、虐待の防止の意識を徹底している。地域に事業所について発信したり、開かれた事業所にするにより虐待防止にもつながっている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者やケアマネは自立支援事業を紹介したり、家族の状況下で、本人の意向を尊重し、利用者・家族・地域支援課・福祉課・社会福祉協議会との連携を図り必要性について活用できるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用開始前に契約書で十分な説明を行い、理解や納得できているかを確認しつつ、契約書等がいつでも確認できるように、双方が一部づつ保管し家族の不安や疑問が発生した場合は誠意をもって対応できるように努めている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に運営推進会議を設け、管理者や職員は利用者や家族からの意見を頂き、その申し出がいかされるように又、その経緯や対応策を次の運営推進会議で外部者へ報告したり、それ以外でもその都度意見に対しての対応に努め運営に反映するように努めている。	家族からの要望で職員が講師となり、認知症について合同で勉強会を行った。また、外出を増やしてほしいや、看取ってほしいとの希望を受け出来る限り家族の要望に沿えるよう対応している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は、運営に関して職員からの意見や提案を毎日始業開始時のミーティングにおいて報告を受け、困っていること、利用者への対応等相談したり、意見交換を行い働く意欲やサービスの向上に努めている。	職員の意見は「ほうれんそうノート」に記録したり、申し送り時、月1回のミーティング時に聞き、悩みや意見に対して、解決できるようにしている。外部研修会などに参加する場合、費用の支援もある。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は常に現場へ赴くと共に、朝のミーティングにおいてみんなの意見をタイムリーに聞くようにしている。労働時間については、個々の職員の希望する勤務時間の要望を聞き、又、処遇改善加算金の支給や、昇給、永年勤続者の表彰・福利厚生に努め、個々の努力を評価したり、各自が向上心を持って働けるように努めている。	資格手当や資格取得のための研修の費用の支援などがある。個々の努力を評価し、向上心を持って笑顔で働けるような職場づくりを行っている。職員間での連携が取れて、急な休みや勤務調整がしやすい環境である。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は常に事業所に赴き、管理者や職員の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会を確保したり、管理者と共に業務内で個々の力量に応じて指導者を選任し、医学的知識や介護知識、又技術指導にあたっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は浦添市グループホーム連絡会に加入し、グループホーム連絡会に参加したり、電話などで管理者や他の職員と情報交換したり、他の事業所に赴たりして、ネットワーク作りに努めサービスの質の向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設利用時に可能な限り、本人と面談をし希望の聞き取りや、事業所の見学をして頂き入居者や職員や事業所の雰囲気を見て、具体的な支援内容を聞き取りをし本人の希望を尊重出来るようサービスを導入し、又本人のニーズが継続出来るように努める。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望の聞き取りを十分行い、介護負担の軽減や本人と家族の要望がずれることの無いように、施設見学や事業所の雰囲気を見て頂き家族の要望に耳を傾け安心してサービスが導入できるようにし、そしてそれが、継続した信頼関係が築ける関係性づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入段階で、その時本人と家族が必要としている支援(家族と共に園外活動に参加したい)等の要望を十分に聞き取りをして、地域のインフォーマルなサービスに繋げていく等、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、常に本人の出来ること、したいことを見極め、食事作り、洗濯物の整理、買い物等、自立支援に向けた活動や行事や地域の清掃活動のお手伝い等をとうして、施設の利用者同士が、暮らしを共にする関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、家族の面会や外出・帰宅等自由にして頂き、事業所内のレクリエーション・カラオケなど季節々の行事、屋外活動のドライブ・買い物などに気軽に参加していただき本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が大切にしてきた馴染みの人との関係性が途切れないように、事業所内で自由に面会して頂いたり、地域との行事やふれあいサロンに参加して、地域や馴染みの方との関係が継続していけるよう支援に努めている。	以前の職場仲間が継続して面会している。船乗りだった方が釣りをするためにドライブに出かけたり、地域との交流を通して馴染みの関係が途切れないよう支援している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者一人ひとりを把握し、その方の相性や馴染みの関係、身体や精神の状態を配慮して入居者が孤立しないように男女関係なく、利用者が良い関係を保てるように、レクリエーションや共同生活を通して利用者同士が支える環境づくりに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても家族が面会に来られた場合や電話で相談を受けた場合は、ご本人やご家族に良い支援が出来るように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1人ひとりの思いや暮らしの希望・意向の確認は本人を中心に把握するように努めている。意思疎通の困難な方やご自身の意向が出しにくい場合は、ご家族から聞き取りをしたり、ご自身の意向が聞き取りやすい環境を工夫し、本人の表情や仕草などで把握し可能な限り本人本位のマネジメントになるように努めている。	利用者からは、日常の支援の中で話を聞き思いや意向を把握して、可能な限り利用者が安心して笑顔でやりたいことが出来るよう支援している。意志の表出が困難な方には家族から聞いたり、表情やしぐさで読み取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	1人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし、生活スタイル・趣味や得意なことなどを把握するため、サービス導入前に聞き取りをしたり、日々の変化を見直すため、常に把握し、その人らしい暮らしが支援できるように、家族や職員と情報の共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人ひとりのその人らしい暮らし方、現状の心身状態、有する力等は、初期のサービス導入前に聞き取りをしたり、日々変化する中で、本人や家族、職員で情報を交換したり、日常生活動作を調査して把握に努めている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がより良く暮らすための課題について、担当者会議で本人を中心に家族や関係者が専門的な意見やアイデアを反映させ介護計画を作成し定期的にモニタリングをして現状に即した計画になるように努めている。H30年2月11日より、介護記録を更新し介護計画が個別に記録できるように努めている。	介護計画に沿った記録にすため、介護記録を新たに個別に記録できるようにした。担当者会議では、本人の意向や家族に専門意見を取り入れ、介護計画を作成している。モニタリングは3か月に1回、状態変化には随時、計画を変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の様子やケアの実践、結果。気づき、工夫は日々本人の個別記録に記入したり、申し送りノートを職員が確認したり、毎日のミーティングで職員が情報を共有して、日々のケアがタイムリーに見直され、介護計画に活かされるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本施設は、小規模多機能や有料老人ホームが同一建物にあるため、3事業所間で柔軟に交流して、合同のレクリエーション・地域の交流等に合同で参加する等、合同での活動を積極的に行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の自治会・同グループホーム・近隣の保育所・校区のボランティア学生・子育て支援プロジェクト団体の行事の余興の協力を得て一人ひとりの暮らしを支える地域資源として活用しながら、一人ひとりの豊かな暮らしを支える支援をしている。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力機関やかかりつけの医療機関へ受診同行や訪問診療に立会適切な医療が受けられるよう図るとともに、どのような状況になっても、安心した医療が受けられるように他の専門職種との連携とネットワーク作りを図っている。	入居前からのかかりつけ医を継続している方2名と、協力医をかかりつけ医として変更した方7名、適切な医療が受けられるよう支援している。定期受診は家族対応を基本としている。受診内容は即日職員に連絡ノートで周知している。薬の変更があった場合は薬ノートにファイルし情報共有している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は、日常の関わりの中で、得た情報や気づきを事業所の看護師や家族と共有し、個々の利用者がかかりつけ医の受診や緊急時の対応の際に適切な看護の支援を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけ医や協力医療機関と連携し、文書・電話・面会等ととして、情報の交換を行い、病状の早期安定や、安心して退院できるように、退院時カンファレンスに参加したり、相談員と平日頃から連携を取るよう努めている。又、定例で行われる浦添市在宅医療ネットワーク連絡会に参加したり、救急病院主催の情報交換会、県医師会主催の多職種連絡会に参加して、顔の見える医療連携を行っている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期には、本人の気持ちを尊重し、早期から本人や家族の意向に沿うように、担当者会議を開催し出来る支援をかかりつけ医や関係者と話し合い、延命治療の意向確認書・看取りの同意書等の意向を文書で明確にし、入院先医療機関と情報を共有して、その希望に沿うようチームで支援できるように努めている。	重要事項説明時に重度化や終末期に向けた事業所の方針を説明し、意思確認を行い書面を交わしている。早期から話し合いを重ね本人家族の意向に沿うよう努めている。本年度1名の看取りを経験した。直後には、管理者が利用者全員の居室にまわり、こころのカウンセリングを行った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の急変や事故発生時には、関係医療機関・事業所の看護師と連携して応急処置・服薬、又、必要時には病院受診や訪問診療など適切な対応に努めている。施設看護師は介護職に対して、その都度、応急処置・初期対応などの指導をしている。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災を想定し年2回(日中・夜間想定)事業所全体の連携した防災訓練に地域の方々も協力して頂き実施している。職員の防災意識を高めると共に、消火器使用訓練・火災通報装置を使用した訓練で、各フロアに訓練の状況を確認するチェッカーを配置して、訓練後の講評を行うことで全職員が意識の高い防災対策が身に付けるように努めている。	法人全体で、昼夜想定避難訓練を2回実施している。地域の方々との協力体制も構築されている。訓練後の講評を行うことで、職員全体の防災意識の向上を図っている。備蓄は3日分整備している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員が一丸となり日々新たな気持ちで支援するため、毎日朝のミーティングでは理念や基本指針の唱和をしている。職員が利用者に対して、尊厳やプライバシーを損ねないケアが出来ているのか、代表者は常に事業所へ赴き、管理者と共に言葉かけ、ケアのあり方の検索や指導に努めている。	一人ひとりに合わせた声掛けや言葉使いにも注意を払い、業務中心ではなく利用者を優先を心がけている。残存能力を發揮できるように洗濯物たたみや食事の下ごしらえ等を日課に取り入れている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で入居者一人ひとりに対して、コミュニケーションを図り、園外活動やレクリエーションの参加の仕方、そのほかの活動の参加に対してご本人の希望や思いを聞き取り、自分で選択や決定が出来るよう、お伺いの心で接するように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、事業所の都合を優先するのではなく、一人ひとりが今日どのように過ごしたいのか体力や状況に応じて、食事・環境整備・休息の取り方・屋外活動の方法等、その過ごし方を希望に沿って支援するように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人の好みの洋服等選択して頂くようにしている。又、男性は理容師、女性は美容師が事業所に訪問し、本人の希望のパーマ・毛染め・好みのカットをして頂いたり、本人の行きつけの美容院に行かれたり、その人らしいおしゃれを大切に支援に努めている。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みを重視した食事形態にして食べて頂いたり、普段の食生活に合わせた好みの食事を工夫して、行事の際には手巻き寿司・誕生会・七夕・クリスマス会お正月の季節の行事に合わせた食事を利用者と職員と一緒に買い物や準備・調理・片づけを行っている。又、屋外で食事をして気分転換を図り、趣向を変え楽しみのある食事になるように努めている。	3食共事業所で職員が調理している。調査日は寿司バイキングで、利用者も準備を手伝い、にぎりや軍艦をテーブルいっぱい並べたパーティスタイルだった。食事担当職員が寿司職人の物まねで笑いを誘い、和やかなムードのなか、好きなネタのリクエストが飛び交っていた。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や栄養バランスや1日の水分量の摂取は、施設看護師、かかりつけ医、連携医療機関の栄養士等と相談しながらアドバイスを頂いたり、一人ひとりの嚥下能力に応じて、量・形態・カロリー・食べ物アレルギー等に留意しながら本人の嗜好を尊重して支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は必ず、一人ひとりの口腔状態を確認し、入れ歯が合わない等で炎症を起こしていないか、家族と相談し適切に歯科を紹介している。又、能力に応じて、自立支援をふまえた口腔の清潔保持に必ず努めている。		
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人ひとりの排泄の能力に応じておむつの使用を減らすため、トイレに誘導し、排泄習慣に合わせて、適時にトイレの声掛け誘導をして、衣類の着脱等排泄リハビリに取り組んでいる。又、本人の希望も尊重して排泄動作の自立支援に努めている。	日中はトイレでの排せつを支援している。チェック表を用いて、一人ひとりの排せつパターンやリズムをつかみ声掛けにより前誘導で失敗を防ぎ、歩行時の腿あげ動作や、衣類の着脱等、リハビリに取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因を考えその対策をとったり、腹部マッサージ・水分量チェック・適宜運動をし家族や医療機関と連携をとり、便秘だけでなく、尿路感染症の予防にも努めている。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1人ひとりの希望をうかがい、介護者の希望・入浴時間の調整、希望に沿った支援の方法を行っている。又、入居者のプライバシーを尊重するために、脱衣室の入り口にしきりを置き中が見えないように工夫したり、一人の利用者に対して一人の職員で関わり、一対一の入浴支援に努め、希望で同性介助を行っている。	夏場は週3回、冬場は週2回午前中の個浴を基本としている。本人の好む石鹸・シャンプー、乳液等を使用してもらっている。一人ひとりの希望に沿うよう入浴時間やスタイルの把握に努め、個別に支援を実施している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人ひとりの体調や生活習慣に応じ、本人のペースに合わせ環境を調整しながら、他の入居者との兼ね合いを配慮しつつ、適宜休息したり安眠できるように努めている。		
47	(20)	○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬について、目的・副作用や容量について、かかりつけ医や家族や事業所の看護師と介護員が綿密に情報交換して病状が安定するように努めている。特に認知症の内服等は体調を整えるため、過剰な服薬にならないように医師と密な連携を取りながら支援している。	薬専用ロッカーで管理している。食事の前に1個づつ取り出し、与薬時に再度チェックを行い、誤薬防止に努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居相談から本人の生活歴・趣味・得意なことを聞き取り、本人らしい楽しみ事・今希望する事は何かを尊重して、一人ひとりの利用者の個別の楽しみ事が日々のレクリエーションや行事に活かせるよう、役割づくり・楽しみ事で気分転換が出来るように努めている。		
49	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	自立支援に向けて、普段から買い物の外出支援や、地域のふれあいサロンとの交流で南部にドライブにいたり、外食・カラオケを楽しんでいる。又、入居者に希望を聞き取りしてクリスマスのイルミネーションを見学したり、又、浦添市グループホーム合同での花見やカラオケ大会に参加し、希望に沿えるよう支援している。	年に3度は全員で遠出の外出を実施している。食料品の買出し等は日常的に実施し、個別でドライブへ出掛ける等の支援もしている。行きたいところを普段の会話のなかで聞き取り、希望にそえるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持てる利用者は、職員と共にお菓子や飲み物の購入の支援を行い、自由なお金の所持や使うことの楽しみを尊重している。自分で管理できない利用者には、事前に家族の了承を得て、屋外活動時の買い物のおこづかい等、事業所が立て替えをし本人の希望に沿えるように努めている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の希望がある場合は、家族の了解のもと電話で直接に家族の声を聴いてもらうことにより本人の安心や納得を得て本人と家族の安心に繋がる事の支援に努めている。		
52	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活空間で利用者の不快や混乱が起こらないように騒音に配慮している。又、生活臭(食事・排泄等)の予防や感染症のウイルス蔓延予防のため、空気洗浄機を設置している。空間には季節の行事の飾り物や手作りの手工芸で飾り付けをして居心地良く過ごせるような工夫をしている。	テーブルには生花が置かれ、壁には行事の協働作品等が飾られている。共用空間は臭いやハウスダスト、ウィルス除去の為に大型の空気清浄機を設置し対策している。ベランダからは緑が覆い茂った自然の木々が眺められ、テレビの前にはソファと本棚を置き寛ぎのカフェコーナーを作り心地よさを追求した空間作りを工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	事業所にはコミュニティスペースがあり、思いおもいに気の合った利用者同士や数名の家族や友人が集い、談笑したりできるスペースがある。又、屋内にも植木や草花を置き、入居者がくつろげるように工夫している。屋外のベランダには木作りのベンチがあり、風に当たり涼んだり、日向ぼっこや夕焼けを見たり、出来る場所の工夫をしている。		
54	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた布団・枕等の寝具も使用して頂き、本人の好きな飾り物・家族の写真・テレビ・ラジオ等、本人が好きなものを持参して頂いて、自宅の様に心地よく過ごして頂けるよう努めている。毎日布団にUV照射掃除機をかけ清潔を保持している方もいる。	ベット、カーテン、クーラー以外のものは本人の好みの物や使い慣れた寝具やなじみのものを持ち込んでいただき、制限はしていない。テレビやラジオ、信仰している宗教関連の本等、本人らしさを大切にした空間作りを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1人ひとりの能力に応じて、車椅子等補助具を使用している。又、必要な場所に手すりを設置しており安全で自立支援に適した環境づくりに努めている。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	26	介護スタッフに相談・確認しながらモニタリングを作成しているが、担当者会議に管理者以外の介護スタッフが参加していない。	担当者会議には管理者以外の介護スタッフを1名必ず参加してもらい、本人・家族から直接希望を聞くことで職員一人一人が利用者の想いをより理解し、利用者の楽しみや生きがい、自立支援につなげる。	居室担当を決め担当者会議に出席する。当日担当者が休みの場合は勤務者が代理で出席する。	3ヶ月
2	54	タンスに入らないオムツ類がそのままタンスの上に置かれている。	プライバシーの保護・居室の整理整頓	収納ボックスを準備し、オムツ類を整理する。又、簡易カーテンなどで見えないように工夫する。	3ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。